

# 就労支援特別VRカリキュラムの開発 ～実践事例と成果～

○竹内 恭平（株式会社ジョリーグッド emou担当ビジネスプロデューサー）  
木谷 直人・外川 大希・蟹江 絢子・中嶋 愛一郎（株式会社ジョリーグッド）  
ワークサポート杉並 就労移行支援事業 職員一同（ワークサポート杉並）

## 1 取り組みの概要

### (1) 背景

企業に課せられている法定雇用率が2.0%から2.3%に引き上げられたことで、精神障害の方の雇用数は前年比34.7%と急増している（表1）。その一方で精神障害のある方の職場定着率は低く、1年後の定着率は49.3%と半数以上が1年以内に離職していることが大きな課題となっている（図1）。また他の障害のある方よりも定着率が低く、離職理由の調査では「職場の雰囲気・人間関係」とコミュニケーションに関する理由が1番多いという結果が出ている（図2）。

表1 平成30年障害者雇用状況の集計結果

障害分類	雇用数（前年度比）
身体障害者	346,208.0人（3.8%増）
知的障害者	121,166.5人（7.9%増）
精神障害者	67,395.0人（34.7%増）

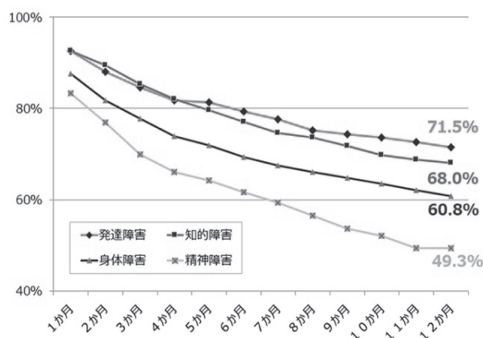


図1 平成30年障害者雇用状況の集計結果（雇用数）

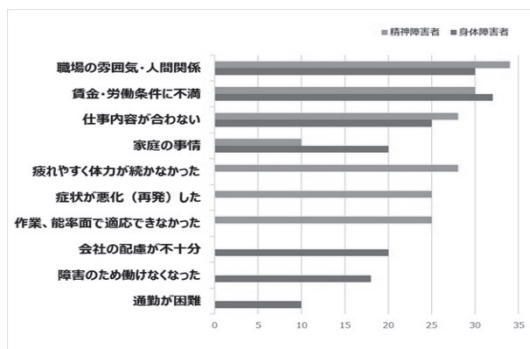


図2 障害者の離職理由

### (2) 取り組みの目的と仮説

こうした背景から、障害のある方々の就職や復職を支援する施設向けに、ジョリーグッドが提供するソーシャルスキルトレーニングVR教材「emou：エモウ」（図3）上で活用できる、就職・復職するためのトレーニングに特化した「就労支援特別VRカリキュラム」の開発を精神科専門医の監修の元で実施した。

本VRカリキュラムは、最短3ヶ月（全12回）で受講を完了することができ、集中的な就労トレーニングが可能になると考えられる。カリキュラムは、職場でのコミュニケーションや複数業務の優先度などを学ぶ「ベーシック」、職場での誘いの断り方やストレス対処などを学ぶ「アサーション・セルフケア」、採用面接や入社後の自己紹介などを実際に発話し練習する「ロールプレイ」の3パートを各4テーマで構成（図4）。



図3 「emou：エモウ」概要

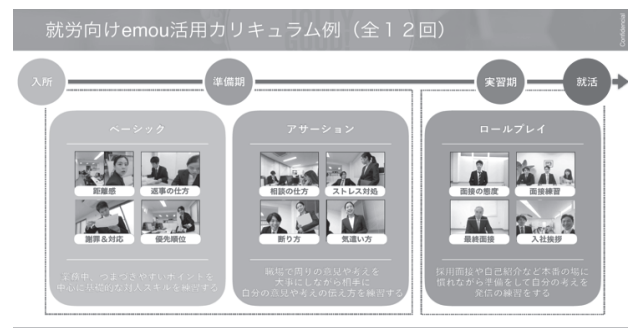


図4 「就労支援特別VRカリキュラム」概要

本VRカリキュラムの受講完了時には、基本的な職場でのコミュニケーションスキルや面接対策をリアルに近い状態でシミュレーションが完了することでカリキュラム受講

者の自己評価の向上に繋がり、結果として入社後のギャップやコミュニケーション困難での離職を防ぐ効果が期待できると仮説を立て、検証した。

## 2 データの収集・検証方法

### (1) 場の設定

本VRカリキュラムの開発に先立ちemouを導入した、就労移行支援施設のワークサポート杉並で実施した。

また効果検証を行った初回のトレーニングについては、「自分の業務、部長から頼まれた業務、上司から頼まれた業務がある場合、緊急度合いなどを考慮した上で、どのように業務の優先順位をつければ良いかを考える」というテーマを設定した。

### (2) データ収集対象

20代女性のAさん（精神疾患、発達障害）、20代女性（知的障害）のBさんの計2名を本取り組みの対象とした。

### (3) データの収集方法

記述式のワークシート（図5）の活用を通して、授業実施前後の利用者の自己評価の変化を測定した。

図5 記述式のワークシート

### (4) ソーシャルスキルトレーニングの実施方法

教室にてVRゴーグルを用意し、講師によるソーシャルスキルトレーニングの進行と、タブレット端末のVR映像の操作に準じて利用者はVRコンテンツの視聴を行った（図6）。

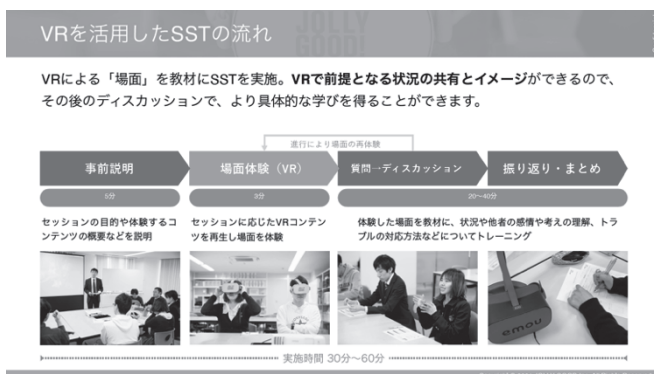


図6 VRを活用したソーシャルスキルトレーニングの流れ

## 3 検証成果

Aさんの自己評価、Bさんの自己評価において前向きな変化が見られた\*。

\*検証成果および詳細については発表時に報告する予定である。

以上より、本VRカリキュラムの受講完了時には、基本的な職場でのコミュニケーションスキルや面接対策をリアルに近い状態でシミュレーションが完了することでカリキュラム受講者の自己評価の向上に繋がると考えられる。

## 4 今後の課題

今回は期間と対象を限定した上でVRを活用した就労支援の取り組みを行ったため、より効果を高めるためには中長期的な本取り組みの継続と経過の観察が必要だと考えている。

利用者にVRトレーニングの感想を聞いてみると、全員が「リアルで現場にいるような感覚がある。社会へ出る時役に立つと思う」とVRを活用したトレーニングに意欲的に答えていることや、支援者自身も「発信能力や人との付き合い方など、社会性の向上に寄与できそうだ」と答えている。

また、本VRカリキュラム受講者の就労後のギャップやコミュニケーション困難での離職を防ぐ効果については、今後本VRカリキュラムの受講者の就労先と連携の上で経過観察を行う必要があると考えている。

以上より、就労支援におけるVRの活用は非常に有意義であると考えている。成果とともに課題点も明確になってきたため、今後もワークサポート杉並の皆様と連携しながら、本取り組みを継続していきたい。

### 【謝辞】

本論文の作成にあたり、取り組みの実施にご協力頂いたワークサポート杉並の職員の皆様に深謝します。

### 【参考文献】

- 1) 厚生労働省『障害者雇用状況の集計結果（雇用数）』（2018）
- 2) 障害者職業総合センター『障害者の就業状況等に関する調査研究』，調査研究報告書No. 137 (2017)
- 3) 厚生労働省『障害者雇用実態調査』（2013）

### 【連絡先】

竹内 恭平  
株式会社ジョリーグッド  
e-mail : kyohei.t@jollygood.co.jp